

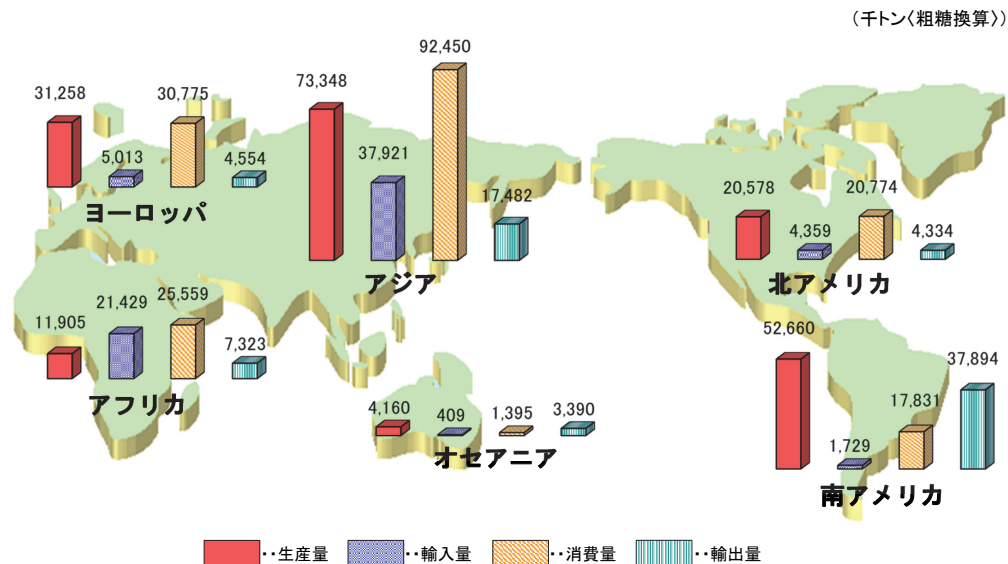


砂糖の国際需給

調査情報部

1 世界の砂糖需給（2026年3月時点予測）

図1 絵で見る世界の地域別砂糖需給（2025/26年度予測値）



資料：英国の民間調査会社GlobalData UK Ltd. 「Quarterly Statistical Update, March 2026」を基に農畜産業振興機構作成
 注1：年度は、国際砂糖年度（10月～翌9月）。
 注2：ヨーロッパには、ロシアを含む。

表 世界の砂糖需給の推移

（単位：千トン〈粗糖換算〉、%）

年度	期首在庫量	生産量	輸入量	消費量	輸出量	期末在庫量	期末在庫率
1995/96	51,896	122,201	34,047	116,280	36,943	54,921	47.2
2000/01	70,606	131,435	38,460	130,890	41,453	68,158	52.1
2005/06	65,626	151,293	47,621	150,147	50,387	64,006	42.6
2010/11	60,193	167,213	54,417	165,420	58,690	57,713	34.9
2015/16	82,111	175,192	69,018	179,318	69,350	77,653	43.3
2020/21	89,172	182,042	67,427	186,011	68,244	84,385	45.4
2021/22	84,385	186,389	69,999	189,226	71,184	80,363	42.5
2022/23	80,363	190,704	71,464	190,968	71,536	80,027	41.9
2023/24	80,027	195,676	76,490	190,418	76,993	84,783	44.5
2024/25	84,783	189,405	73,271	190,682	73,900	82,877	43.5
2025/26 (2026年3月予測)	82,877	193,910	70,861	188,784	74,977	83,886	44.4

資料：GlobalData UK Ltd. 「Quarterly Statistical Update, March 2026」
 注1：年度は国際砂糖年度（10月～翌9月）。
 注2：2023/24年度および2024/25年度の数値は推定値、2025/26年度の数値は予測値。
 注3：期末在庫量は（期首在庫量+生産量+輸入量-消費量-輸出量）。
 注4：期末在庫率は、期末在庫量を消費量で除した割合。

「世界の砂糖需給」および「主要国の砂糖需給」は四半期ごとの更新となっていますので、次回は2026年7月号の掲載となります。直近の内容は2026年4月号をご参照ください。

「世界の砂糖需給」： https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_003514.html

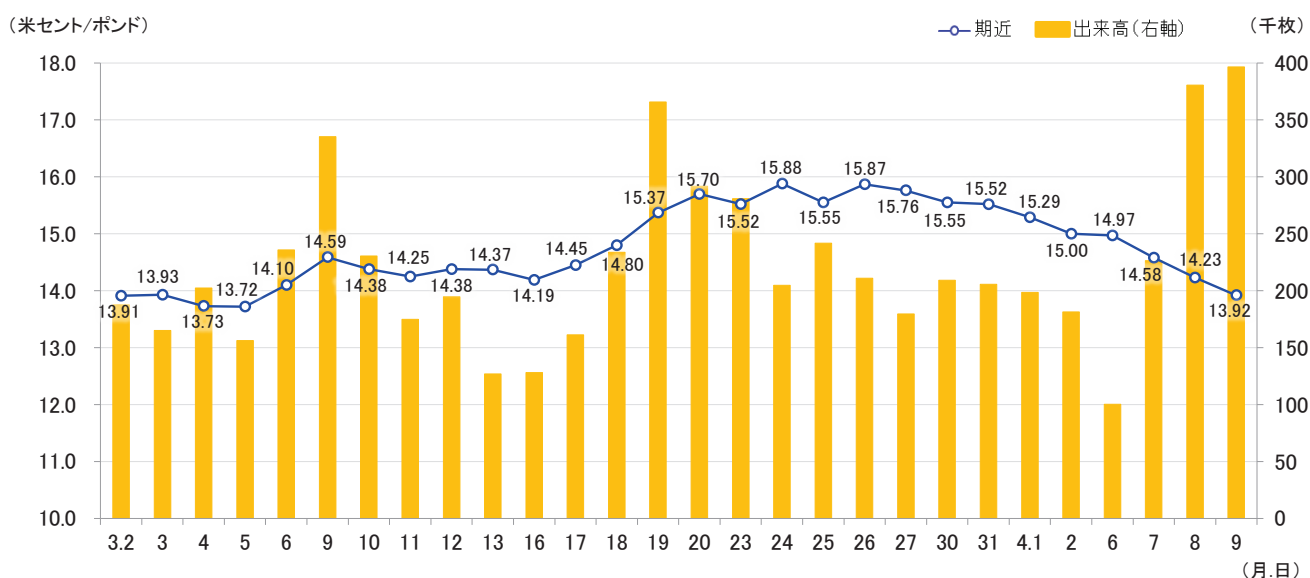
「主要国の砂糖需給」： https://www.alic.go.jp/joho-s/joho07_003515.html

2 国際価格の動向

ニューヨーク粗糖先物相場の動き (3/2 ~ 4/9)

～原油価格が相場を左右し、一時的に15セント台まで上昇も、13セント台まで戻る～

図 ニューヨーク粗糖先物相場の動き



資料：インターコンチネンタル取引所
注：期近5月限の値。

2026年3月のニューヨーク粗糖先物相場（5月^{がつ}限^{ぎり}）の推移を見ると、2日は原油高^(注1)により上昇し、1ポンド当たり13.91セント^(注2)となった。3日は原油高の影響が続き、小幅に上昇したものの、4日以降は世界的な砂糖余剰見通しにより下落し、5日は同13.72セントをつけた。6日以降はイスラエルのイラン石油貯蔵施設空爆による原油高から急騰し、9日は同14.59セントとなった。10日以降は原油価格と相場が連動する状況が続いた後、17日以降は継続的に原油高の影響を受けたことで上昇傾向となり、20日は同15.70セントをつけた。23日以降も原油価格と相場が連動する状況が続き、26日は原油高により同15.87セントと上昇したが、27日以降はブラジルの砂糖増産とドル高^(注3)を受けて下落し、31日は同15.52セントとなった。

4月に入ると、1日は原油安とインドの砂糖増産を背景に同15.29セントと前取引日から下落し、2

日以降も同様の理由から下落傾向が続き、9日は同13.92セントと13セント台まで値を下げた。

(注1) 一般に、原油価格が上昇すると、石油の代替燃料であるバイオエタノールの需要も増加する。バイオエタノールの需要増加により、その原料作物(サトウキビ、てん菜など)のバイオエタノール生産への仕向けが増える一方、それらから生産される食品(サトウキビの場合は砂糖)の生産・供給が減ると想定される。食品用途仕向けの度合いが小さくなるほど需給がひっ迫し、当該食品の価格を押し上げる方向に作用する。

(注2) 1ポンドは約453.6グラム、1米セントは1米ドルの100分の1。

(注3) 粗糖は米ドル建てで取引されるため、米ドルに対してレアルが下落すると、相対的にブラジル産粗糖の価格競争力が高まる。世界最大の砂糖輸出国ブラジルの輸出意欲が高まると、需給の緩和につながることから、価格を押し下げる方向に作用する。

3 世界の砂糖需給に影響する各国の動向（2026年4月時点予測）

ブラジル

2026/27年度（4月～翌3月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：909万ha（前年度比0.4%増）
生産量：6億8550万トン（同3.0%増）

【砂糖（甘しや糖）】

生産量：4647万トン（同0.9%減）
輸出量：3592万トン（同1.9%減）

2026/27年度の砂糖輸出量はわずかな減少見込み

2026/27年度（4月～翌3月）のサトウキビ収穫面積は、909万ヘクタール（前年度比0.4%増）とわずかな増加が見込まれている（表）。サトウキビ生産量は、3月の適度な降雨により、生育状態も良好なことから、6億8550万トン（同3.0%増）とやや増加が見込まれている。

砂糖生産量は、26/27年度の収穫開始直後で予測が安定しない部分もあるが、サトウキビの砂糖仕向け割合の低下が予測されることなどから、4647万トン（同0.9%減）とわずかな減少が見込まれている。砂糖輸出量は、3592万トン（同1.9%減）とわずかな減少が見込まれているが、引き続き国際市場でのブラジル産砂糖に対する堅調な需要が見込まれている。

表 ブラジルの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

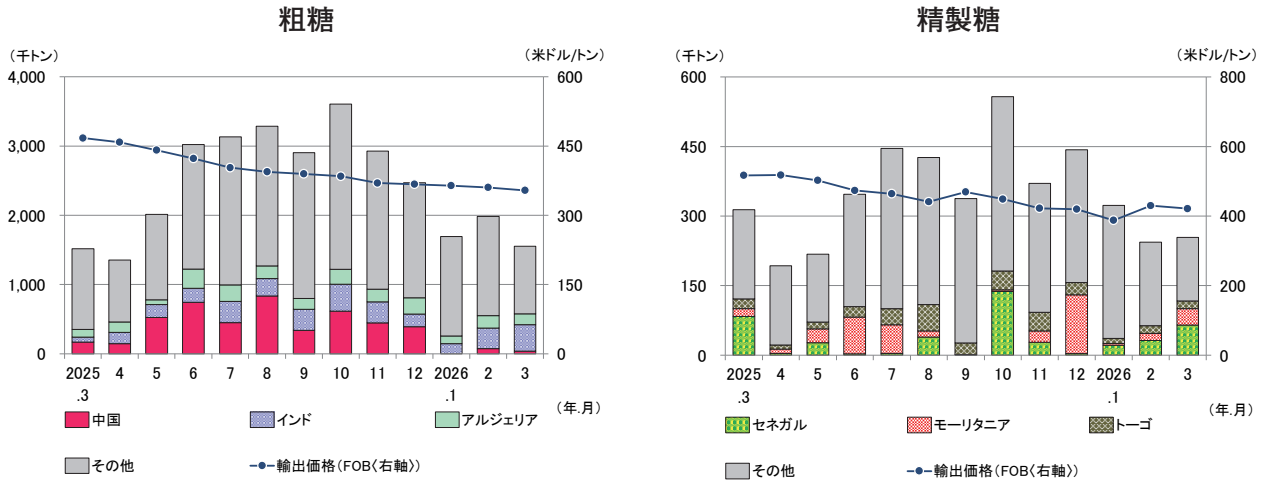
年度	2023/24	2024/25	2025/26	2026/27 (4月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	8,408	8,844	9,053	9,087	0.4	
サトウキビ生産量	713,134	678,676	665,500	685,500	3.0	
砂糖	生産量	49,320	47,190	46,890	46,470	▲ 0.9
	輸入量	5	4	5	5	▲ 4.3
	消費量	10,965	10,751	10,551	10,551	0.0
	輸出量	37,393	36,176	36,618	35,923	▲ 1.9
	期末在庫量	3,200	3,467	3,192	3,192	0.0
	期末在庫率	6.6	7.4	6.8	6.9	0.1ポイント増

資料：GlobalData UK Ltd. [Monthly Sugar Information in Major Countries, April 2026]

注1：2024/25年度および2025/26年度の数値は推定値、2026/27年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) ブラジルの砂糖 (粗糖・精製糖別) の輸出量および輸出価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」
 注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。
 注2：輸出量は、直近13カ月（累計）の上位3カ国・地域を表示。

インド

2025/26年度（10月～翌9月）の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：526万ha（前年度比0.3%増）
 生産量：4億854万トン（同4.8%増）

【砂糖（甘しゅ糖）】

生産量：3018万トン（同7.3%増）
 輸出量：371万トン（同8.9%減）

2025/26年度の砂糖生産量はかなりの程度増加見込み

2025/26年度（10月～翌9月）のサトウキビ収穫面積は、526万ヘクタール（前年度比0.3%増）と前年度並みが見込まれている（表）。サトウキビ生産量は、1）25年のモンスーンが収量向上に寄与したこと、2）マハラシュトラ州など一部地域で発生した洪水の影響が長期的なものではないことと推測され、4億854万トン（同4.8%増）とやや増加が見込まれている。

砂糖生産量は、主要生産州であるマハラシュトラ州、ウツタル・プラデーシュ州およびカルナータカ州でのサトウキビの増産と歩留まり（糖回収率）の

上昇により、3018万トン（同7.3%増）とかなりの程度増加が見込まれている。しかし、同国西部におけるサトウキビ開花時期の早期化、同国北部における従来品種の使用による収量低迷、さらには伝統的な砂糖であるグル・カンサリへの転用が予想を上回ったことにより、サトウキビの供給量が急激に減少し、2月および3月予測に続く下方修正となった。

砂糖輸出量は、371万トン（同8.9%減）とかなりの程度減少が見込まれている。中東情勢の悪化を背景に国際相場が一時的に上昇したものの、国内生産見通しの下方修正による国内相場の上昇やインドルピー高の進行により、輸出のメリットが弱まったとされている。

表 インドの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2022/23	2023/24	2024/25	2025/26 (3月予測)	2025/26 (4月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	5,441	5,544	5,243	5,259	5,259	0.3	
サトウキビ生産量	455,898	443,707	389,847	410,005	408,543	4.8	
砂糖	生産量	35,389	34,677	28,132	31,194	30,181	7.3
	輸入量	1,687	3,129	2,802	3,217	3,217	14.8
	消費量	30,078	31,093	30,294	30,780	30,348	0.2
	輸出量	8,646	4,384	4,068	3,798	3,705	▲ 8.9
	期末在庫量	6,286	8,615	5,187	4,804	4,531	▲ 12.6
	期末在庫率	16.2	24.3	15.1	13.9	13.3	1.8ポイント減

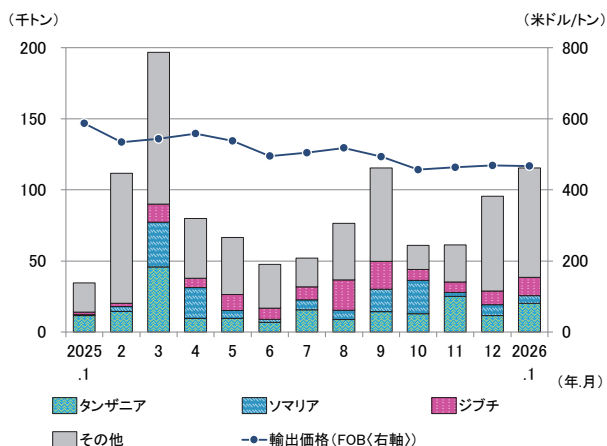
資料：GlobalData UK Ltd. 「Monthly Sugar Information in Major Countries, April 2026」

注1：2023/24年度および2024/25年度の数値は推定値、2025/26年度の数値は予測値。

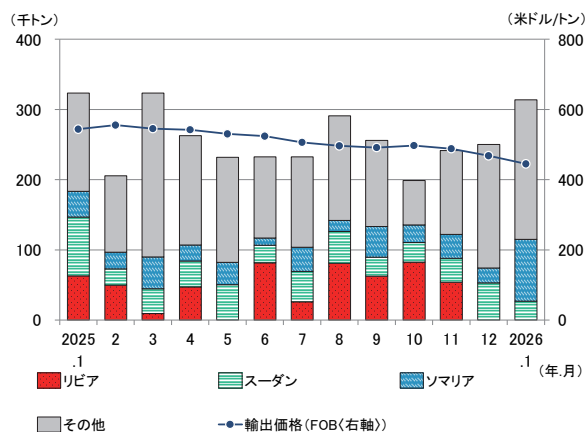
注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) インドの砂糖(粗糖・精製糖別)の輸出量および輸出価格の推移

粗糖



精製糖



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14(粗糖)および1701.99(精製糖)の数値。

注2：輸出量は、直近13カ月(累計)の上位3カ国・地域を表示。

中国

2025/26年度(10月～翌9月)の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：121万ha(前年度比1.3%増)

生産量：8618万トン(同17.2%増)

【てん菜】

収穫面積：23万ha(同7.8%増)

生産量：1266万トン(同5.9%減)

【砂糖(甘しゅ糖およびてん菜糖)】

生産量：1320万トン(同9.4%増)

輸入量：465万トン(同28.2%減)

2025/26年度の砂糖輸入量は大幅な減少見込み

2025/26年度(10月～翌9月)のサトウキビの収穫面積は、競合作物と比較して収益性が高いことから生産者が作付けを増加させたことで、121万へ

クタール(前年度比1.3%増)とわずかな増加が見込まれている(表)。サトウキビ生産量は、主産地である広西チワン族自治区や雲南省で収穫開始が遅れたが、サトウキビの生育は良好であるため、8618万トン(同17.2%増)と大幅な増加が見込まれて

いる。

てん菜収穫面積は、競合作物の需要の低下により、生産者が作付けを増加させたことで23万ヘクタール（同7.8%増）とかなりの程度増加が見込まれている。一方、てん菜生産量は、単収の減少により1266万トン（同5.9%減）とやや減少が見込まれている。

砂糖生産量は、てん菜の減産以上にサトウキビが増産したため、1320万トン（同9.4%増）とかなりの程度増加が見込まれている。砂糖輸入量は、引き続き国内の需給ギャップを埋めるために一定の輸入が予想されるが、国内生産の改善見通しから、465万トン（同28.2%減）と大幅な減少が見込まれている。

表 中国の砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

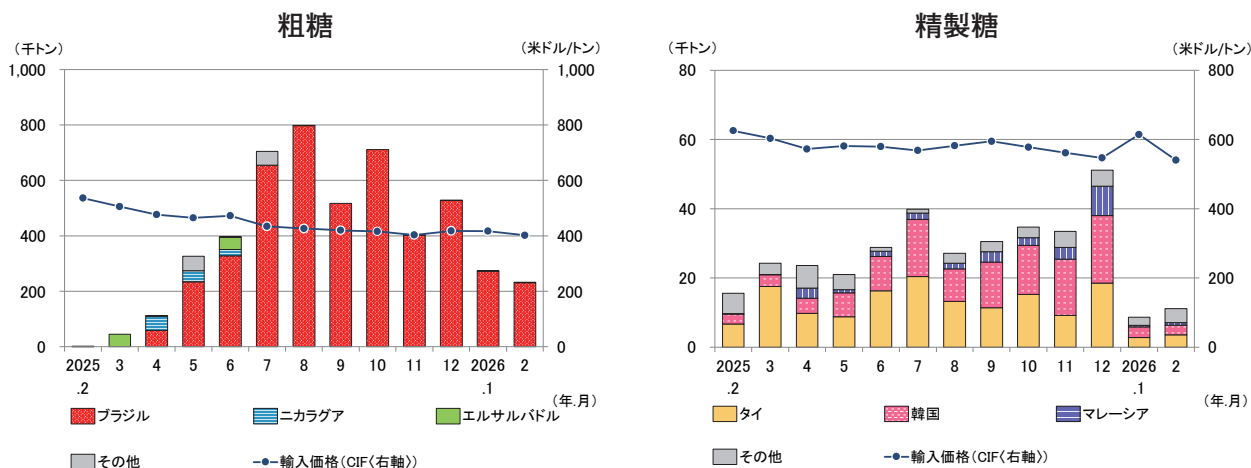
年度	2022/23	2023/24	2024/25	2025/26 (3月予測)	2025/26 (4月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	1,102	1,095	1,189	1,205	1,205	1.3	
サトウキビ生産量	62,595	73,132	73,537	83,793	86,175	17.2	
てん菜収穫面積	182	167	217	234	234	7.8	
てん菜生産量	8,719	9,377	13,460	12,662	12,662	▲ 5.9	
砂糖	生産量	9,699	10,773	12,067	12,765	13,197	9.4
	輸入量	5,851	7,402	6,470	4,955	4,649	▲ 28.2
	消費量	16,578	16,740	16,924	16,956	16,956	0.2
	輸出量	201	179	170	152	152	▲ 10.8
	期末在庫量	14,193	15,449	16,893	17,505	17,631	4.4
	期末在庫率	84.6	91.3	98.8	102.3	103.1	4.2ポイント増

資料：GlobalData UK Ltd. 「Monthly Sugar Information in Major Countries, April 2026」

注1：2023/24年度および2024/25年度の数値は推定値、2025/26年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) 中国の砂糖（粗糖・精製糖別）の輸入量および輸入価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：輸入量は、直近13カ月（累計）の上位3カ国・地域を表示。

注3：2025年2月の粗糖輸入量は、千トン未満。

E U

2025/26年度（10月～翌9月）の見通し

【てん菜】

収穫面積：140万ha（前年度比10.6%減）

生産量：1億1380万トン（同2.3%減）

【砂糖（てん菜糖）】

生産量：1743万トン（同0.7%増）

輸入量：155万トン（同3.1%増）

2025/26年度の砂糖輸入量はやや増加見込み

2025/26年度（10月～翌9月）のてん菜収穫面積は、生産量上位国であるフランス、ドイツ、ポーランドを中心に主要生産各国での減少が見込まれることから、140万ヘクタール（前年度比10.6%減）とかなりの程度減少が見込まれている（表）。てん菜生産量は、フランスやドイツで単収の増加を見込んでいるものの、作付面積の減少により、1億1380万トン（同2.3%減）とわずかな減少が見込まれている。3月に入り、EUおよび英国における26/27年度のてん菜の作付けが開始されているが、すでに

イタリアのてん菜糖工場1工場が26年をもって生産停止を決定していることなどから、さらなる収穫面積の減少も見込まれている。

砂糖生産量は、24/25年度と比較しててん菜の糖度が上昇したことにより、1743万トン（同0.7%増）とわずかな増加が見込まれている一方、欧州委員会や米国農務省は、てん菜の作付面積減少による減産を見込んでいる。砂糖輸入量は、155万トン（同3.1%増）とやや増加が見込まれ、さらにEU市場は供給過多の状態が続いていることから、期末在庫は270万トン（同21.8%増）と大幅な増加が見込まれている。

表 EUの砂糖需給の推移

（単位：千ha、千トン、%）

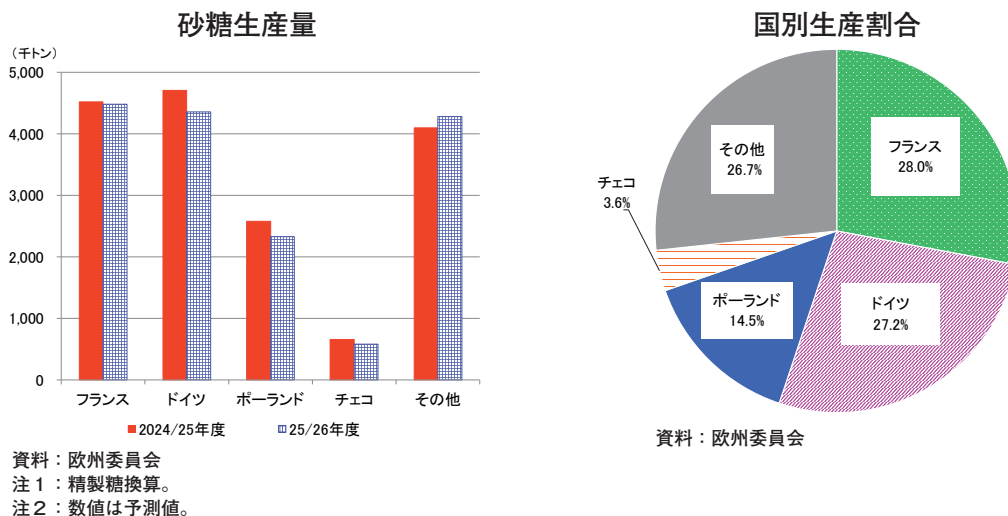
年度	2022/23	2023/24	2024/25	2025/26 (3月予測)	2025/26 (4月予測)	前年度比 (増減率)	
てん菜収穫面積	1,398	1,447	1,569	1,403	1,403	▲ 10.6	
てん菜生産量	99,760	109,898	116,498	113,804	113,804	▲ 2.3	
砂糖	生産量	15,480	16,313	17,318	17,432	17,432	0.7
	輸入量	3,287	2,199	1,503	1,530	1,550	3.1
	消費量	17,272	16,375	16,470	16,468	16,470	0.0
	輸出量	899	2,087	2,090	2,029	2,029	▲ 2.9
	期末在庫量	1,908	1,959	2,220	2,688	2,703	21.8
	期末在庫率	10.5	10.6	12.0	14.5	14.6	2.7ポイント増

資料：GlobalData UK Ltd. 「Monthly Sugar Information in Major Countries, April 2026」

注1：2023/24年度および2024/25年度の数値は推定値、2025/26年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) EUの砂糖生産量および国別の生産割合の見通し (2025/26年度) (2025年12月時点)



4 日本の主要輸入先の動向 (2026年4月時点予測)

近年、日本の粗糖(甘しや糖・分みつ糖<HSコード1701.14-110>および甘しや糖・その他<同1701.14-200>の合計)の主要輸入先は、豪州およびタイである。2025年の主要輸入先の割合を見ると、豪州が90.7%(前年比0.5ポイント増)、タイが9.3%(同0.4ポイント減)と、両国でほぼ全量を占めている(財務省「貿易統計」)。

豪州

2026/27年度(4月~翌3月)の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：33万ha(前年度比2.1%減)

生産量：2934万トン(同1.6%増)

【砂糖(甘しや糖)】

生産量：398万トン(同1.6%増)

輸出量：300万トン(同2.1%増)

2026/27年度の砂糖輸出量はわずかな増加見込み

2026/27年度(4月~翌3月)のサトウキビ収穫面積は、33万ヘクタール(前年度比2.1%減)とわずかな減少が見込まれている(表)。サトウキビ生産量は、23/24年度から継続して3000万トンを下回るが、一定の降雨量があることから、2934万トン(同1.6%増)とわずかな増加が見込まれている。26/27年度の作付けは、25/26年度の収穫作業が例年と比較して早期に終了したことで、開始が早ま

ると見込まれている。

砂糖生産量は、サトウキビの増産により、398万トン(同1.6%増)とわずかな増加が見込まれている。砂糖輸出量は、砂糖の増産に加え、アジア地域を中心に引き続き堅調な需要が見込まれることから、300万トン(同2.1%増)とわずかな増加が見込まれている。また、豪州連邦政府と欧州委員会は、26年3月24日に自由貿易協定(FTA)締結で合意し、砂糖については、粗糖における3万5000トンの新規関税割当(枠内無税)などが公表された。

表 豪州の砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

年度	2023/24	2024/25	2025/26	2026/27 (4月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	341	324	338	331	▲ 2.1	
サトウキビ生産量	29,855	28,801	28,873	29,335	1.6	
砂糖	生産量	4,128	3,905	3,914	3,977	1.6
	輸入量	10	14	7	11	52.9
	消費量	975	976	980	985	0.5
	輸出量	3,700	2,896	2,941	3,002	2.1
	期末在庫量	450	497	498	498	0.1
	期末在庫率	9.6	12.8	12.7	12.5	0.2ポイント減

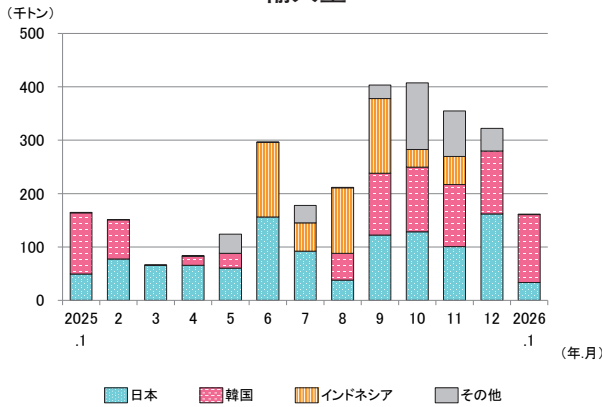
資料：GlobalData UK Ltd. 「Monthly Sugar Information in Major Countries, April 2026」

注1：2024/25年度および2025/26年度の数値は推定値、2026/27年度の数値は予測値。

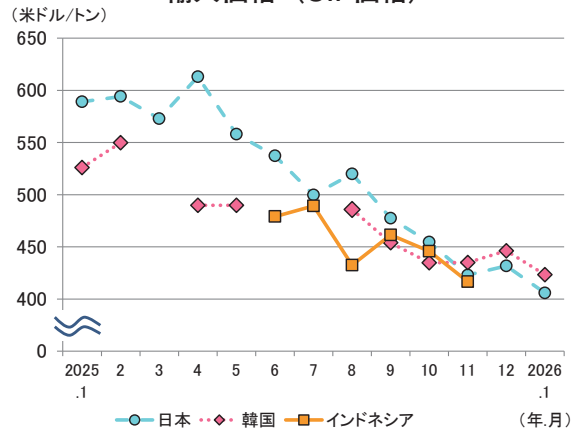
注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) 主要国の豪州産砂糖(粗糖)の輸入量および輸入価格の推移

輸入量



輸入価格 (CIF価格)



資料：輸入量はGlobalData UK Ltd. 「Monthly Sugar Information in Major Countries, April 2026」、輸入価格は「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14(粗糖)の数値。

注2：直近13カ月(累計)の上位3カ国・地域とその他の輸入量を表示。

その他は上位3カ国・地域を除いた国・地域の合計。

ただし、GlobalData UK Ltd.の資料に掲載されている国・地域となる。

注3：豪州の輸出に関する月別の統計情報は公表されていないため、主要輸入国の月別の輸入に関する統計情報に基づき作成。

注4：韓国の25年3月、6月、7月の輸入量は実績なし。

注5：インドネシアの25年1月、2月、3月、4月、5月、12月、26年1月の輸入量は実績なし。

タイ

2025/26年度(10月～翌9月)の見通し

【サトウキビ】

収穫面積：157万ha(前年度比2.2%増)

生産量：1億600万トン(同15.2%増)

【砂糖(甘しや糖)】

生産量：1258万トン(同18.9%増)

輸出量：837万トン(同23.2%増)

2025/26年度の砂糖輸出量は大幅な増加見込み

2025/26年度(10月～翌9月)のサトウキビ収穫面積は、157万ヘクタール(前年度比2.2%増)とわずかな増加が見込まれている(表)。サトウキ

ビ生産量は、収穫前の乾燥した天候が収量に有利に働くことにより、1億600万トン(同15.2%増)とかなり大きな増加が見込まれている。しかし、競合作物であり、一般的に粗放的な栽培管理が可能とされるキャッサバは、依然としてサトウキビと比較

して収益性が高く、中東情勢の悪化による燃料費などの資材費の高騰がこの差をさらに広げる可能性がある。

砂糖生産量は、サトウキビの増産とCCS^(注)の上昇により、1258万トン（同18.9%増）と大幅な増加が見込まれている。砂糖輸出量は、砂糖の増産を

背景に837万トン（同23.2%増）と大幅な増加が見込まれている。

(注) Commercial Cane Sugar（可製糖率）の略。サトウキビのシヨ糖含有率、繊維含有率および搾汁液の純度から算出される回収可能な糖分の割合。

表 タイの砂糖需給の推移

(単位：千ha、千トン、%)

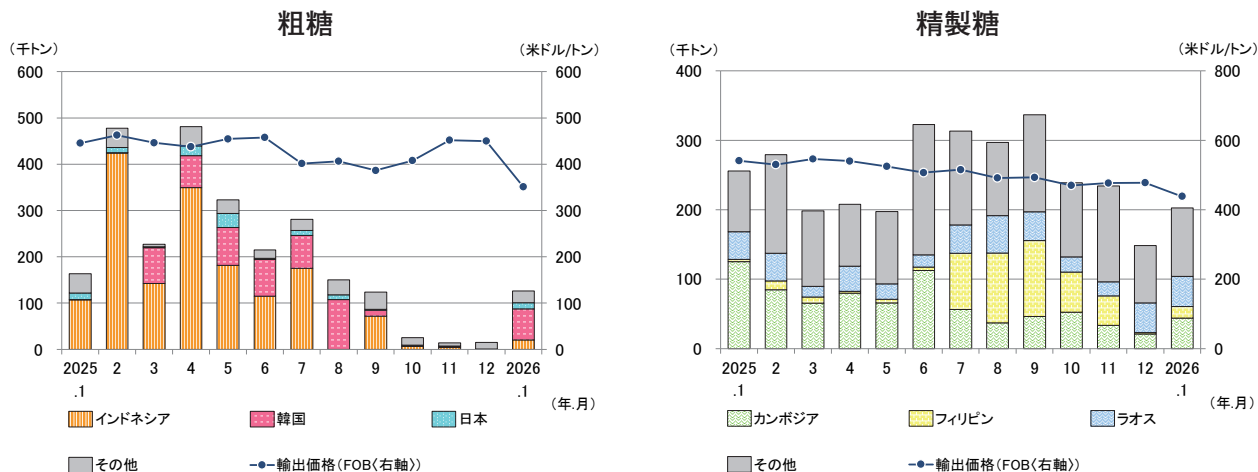
年度	2022/23	2023/24	2024/25	2025/26 (3月予測)	2025/26 (4月予測)	前年度比 (増減率)	
サトウキビ収穫面積	1,514	1,475	1,541	1,574	1,574	2.2	
サトウキビ生産量	93,888	82,167	92,043	98,000	106,000	15.2	
砂糖	生産量	11,688	9,315	10,576	11,500	12,577	18.9
	輸入量	276	249	358	30	30	▲ 91.6
	消費量	3,348	3,294	3,329	3,348	3,348	0.6
	輸出量	8,002	5,888	6,798	8,646	8,372	23.2
	期末在庫量	2,564	2,945	3,752	3,306	4,639	23.6
	期末在庫率	22.6	32.1	37.1	27.6	39.6	2.5ポイント増

資料：GlobalData UK Ltd. [Monthly Sugar Information in Major Countries, April 2026]

注1：2023/24年度および2024/25年度の数値は推定値、2025/26年度の数値は予測値。

注2：期末在庫量、期末在庫率および各項目の前年度比は、端数処理の関係で表中の値の計算結果と一致しない場合がある。

(参考) タイの砂糖（粗糖・精製糖別）の輸出量および輸出価格の推移



資料：「Global Trade Atlas」

注1：HSコード1701.14（粗糖）および1701.99（精製糖）の数値。

注2：輸出量は、直近13カ月（累計）の上位3カ国・地域を表示。